第 12 回日本アマチュア無線連盟定時社員総会準備書面

2023 年 6 月 16 日

一般社団法人　日本アマチュア無線連盟
会長　JG1KTC 高 尾　義 則　殿

社員　JH4PHW 坂井 志郎

社員総会議事運営規程第 14 条の規定に基づき、下記の通り準備書面を提出します。

第 1 号議題　令和4年度決算の件

ライフメンバーから准員となった方のフォロー状況について質問します。 21 年の社員総会でライフメンバーの無線を離れている方への対応についての提案がありました。 准員一人当たりの経費はどれだけ掛かっているのでしょうか？　准員として毎年支払いをしている会員、カードの転送会員あるいは JARL News の申込者、ライフメンバーからの移行で会費を払っておられない人の人数はどのようになっていますか？　経費が掛かっても調査をして今後の経費を削減することが可能なのかを判断することが必要と考えます。

政治家へのロビイング活動の成果について質問します。
政治家とのコネクションの強化を実施してきている点は評価します。活動の相手が JARL に関係のない政治家も居られるように見えます。具体的な成果は出ているのでしょうか？
また、本年 3 月 22 日公布施行の規則・告示と 9 月 25 日施行の規則 ・告示についてかねてから JARL が陳情してきたと聞いていますが、その陳情内容と今回の法令改正についてどの部分が陳情の内容だったのでしょうか？具体的に説明をお願いします。

報告事項について
報告事項(1)令和4年度事業報告
2.アマチュア無線活動の推進(2)アマチュア無線制度の改善活動におけるARISSの改正についての対応について
法令の改正の中で ARISS 関連の部分は改悪ではないかという声がスクールコンタクトを検討していた JARL や JAMSAT のメンバーから寄せられています。 JARL としてどのように対応をしてきたのでしょうか？　これまで特に特別局として分かりやすくまとめられていましたが、体験局としての位置づけとなったため、第 3 者通信などの観点で海外との調整が済んでいないようです。
ARISSと体験局を一緒にする案については総務省とどのようなやり取りの結果、今回の案になったのでしょうか？
FCC の part97.115　Third party communications に規定されている日本の体

験局は第 3 者通信に抵触する疑いがあるので NA1SS ではなく、OR4ISS のコールサインでスクールコンタクトを実施すると ARISS スクールコンタクトコーディネータ 7M3TJZ 安田聖氏は ARISS に確認の上ブログに書かれています。JARL では法令改正検討の段階でこのような確認はしていなかったのでしょうか？

3.電波環境のクリーン化における規正局との連携について

コロナ禍のためここ 3 年の総務省規制局との連携を確認すると 1, 4, 6, 0 の 4 つエリアでは一度も実施されていません。ガイダンス局の強化と合わせて一層の連携が必要と考えています。JARL本部から各地方本部への働きかけなどの実施はされていますか？
是非積極的に活動される監査長を選定いただくことも含めて検討をお願いします。

4.会員の増強と会員事業の推進

(3)QSL・SWL カードの転送③でカードの取扱処理枚数の改善に努めているという内容について説明をお願いします。
QSL転送で会員向けの割合は減り、非会員向け割合は逆に増えています。これは紙QSLから hQSL, eQSL などの電子QSLの普及率が上がったこと、転送の利便性や即時性を考えると会員が脱会している割合も増えているのではないかと考えられます。現在は増減の計算結果で報告がされています。それだけでは十分に分析ができていないと考えられます。ここ 5 年間の新規入会と脱会の数を正員、転送会員の別を含めて教えてください。
また、カードを転送可能なコールサインのリストをJARLが提供することで不要な転送カードを発行しない対応もできるので是非実現をお願いします。
脱会しているが転送の必要のあるカードが溜まっている人に対して再入会・継続の依頼をしているということであるが、2022 年度は何件の依頼をして、会員になった実績はどのようになっていますか？

(3)QSL・SWL カードの転送④で電子QSLについて幅広く検討をおこなったとありますが、具体的に説明をお願いします。
私が総会に参加し始めた 2018 年以来文のすべてが全く同じ「電子 QSL システムについては、電子 QSL 委員会を置いて検討を進めました」という説明しかされていません。昨年度も説明をお願いしましたが、今年も令和4年度での進捗について説明をお願いします。

報告事項(2)令和 5 年度収支予算
令和 5 年度の中で電子 QSL に関しての予算を取っているのか説明をお願いします。
QSL 転送の遅れがかなり出てきているが、QSL 費を増やして期間を短縮するとか、あるいは電子 QSL の推進をお願いするなどバランスを考える必要があると考えるが、JARL としてはどのように進めようとしているのか説明をお願いします。

報告事項(3)令和 5 年度事業計画
2.アマチュア無線活動の推進
(10)3. 5MHz帯での追加割り当てについての要望
追加割り当てで現在1. 9MHz帯は 2 つの帯域にそして3. 5MHz帯は6つの帯域に分かれているが、スプリアスの実測においてはそれぞれの帯域ごとに測定をすることが求められています。3. 5MHz帯よりも広いバンドでも中心の周波数での測定でOKとなっています。3.5MHz 帯での計測の簡素化などの働きかけを総務省などへ実施していただきたい。

3.電波環境のクリーン化と混信妨害の防止
(1)ガイダンス局の増設についての質問と提案について
2020 年に日野岳専務理事からは「増設して参りたいということで、私どもも考えております。皆さんからも要望をいただいております」という回答をいただき期待していましたが、3 年経っても動きが全く見えてきません。
例えば関東地方本部においては 1 台を順番に回していることから最大会員数を持つ東京都支部でも 1 年に 2 か月しか運用の順番は回ってきません。機器も老朽化してきています。最新のトランシーバーで聞くと 59 で聞こえるものが51などということもあります。
2023 年 3 月の金曜日に 2 週にわたって 15 分間 IC-9700 と GP アンテナと使ってウォータフォールをモニタした状況を次の表にまとめました。ブランクは使用がなかったもの、1はどちらかの週で入感があったもの、2は両方の週で入感があったものです。ガイダンス局の設備ではここまで聞こえないため、ガイダンスを流すこともできません。ガイダンス設備の最新化と増加をすることが必要かと思います。再度至急検討をお願いします。

また、6 月 4 日のJA1RLの430MHz帯の電波を聞きましたが、ガイダンスを出すのに十分な電波強度を出せるロケーションにあると考えられます。JARL本部にも「がいだんす局」の設置を強く要望します。

	00	20	40	60	80
435.0	1		1		2
435.1	1	2	2	1	2
435.2	1	2	1	1	1
435.3	1	2	1	2	1
435.4	1	2	2	1	
435.5	2	1	2	2	
435.6	1		2	2	
435.7	1	2	1	1	1
435.8	2	1	1	1	
435.9	2	1	2	2	1
436.0	1	2	1	1	2
436.1	2	2		2	
436.2	2	2	1	1	2
436.3	2	2	2	2	2
436.4	2		1	2	2
436.5	1	2	2	1	
436.6		1	1	1	2
436.7		1	1	2	1
436.8		1		2	1
436.9	2	1	1	1	2
437.0	2		1	2	2
437.1		2	1	1	2
437.2	2	2	1	1	2
437.3	2	1	1	1	2
437.4	2	1	2	2	
437.5		1	2	1	
437.6	1	1		1	2
437.7	2	1	1	2	1
437.8		1	2	2	1
437.9	1	2		2	

(2)電波環境のクリーン化での太陽光発電への対応について

昨年東京都でパブリックコメントがあった件についての対応を質問しました。それ例外にも、京都府では 2020 年「建築物への再エネ設備の導入義務制度」が制定され、群馬県でも「ぐんま 5 つのゼロ宣言」が制定されるなど 2030 年の温室効果ガス削減や脱炭素化の目標に向けて待ったなしの状況と考えています。JARL としてはノイズ源に対してどのような対応をしているのか説明をお願いします。

太陽光発電からのノイズだけでなく、夜になってもノイズレベルが下がらないことが増えてきています。いろいろ確認してみると LED からのノイズが原因の例が増えてきています。電球そのものではなく周辺の回路からの不要電磁波の輻射によるものです。JARL としてはどのような対応をしているのか説明をお願いします。

「6.78MHz 帯電界結合及び 100kHz 帯磁界結合 WPT システム」とアマチュア無線システムの周波数共用検討について状況を質問します。

JARL代表として誰が参加していますか？ あまり広く知られていない印象ですが、JARL会員へ向けての啓蒙活動は計画されていますか？

「433MHz 帯タイヤ空気圧モニタ及びリモートキーレスエントリに係る技術的条件」の検討が開始されています。この JARL の対応状況と今後の計画について質問します。
433.67-434.17MHzでの利用が検討されています。JARL会員の多くが利用している433MHzの案件ですが、JARLとしてすでに検討へ参画していますか？ 今後どのように対応をしていく予定か教えてください。この周波数の影響の代わりに5MHz帯の開放や3.5MHz 帯の連続化、2.4GHz 帯の上側への拡張などの提案はしていかないのでしょうか？

4.会員増強と会員事業の推進
(1)会員増強と会員事業の推進 ⑥の QSL 転送の電子化について

会員外へのカードをJARLへ送付しないようにするため転送可能なコールサインのリストをJARLが提供することを早期に実現してください。多くのユーザーが使用しているHamlogなどでリストを取り込みで印刷しない設定には即対応可能と考えています。

6.青少年へのアマチュア無線活動の支援でのARISSスクールコンタクトの活用について

青少年への ARISS コンタクトは英語で行われることが一般的ですが、日本棟においても宇宙飛行士が資格を持っていれば設置をすることが可能と考えられます。日本語によるスクールコンタクトを推進して青少年に無線活動を持ってもらうという検討はされているのでしょうか？
衛星を打ち上げるという計画がないのであれば衛星積立基金をこの活動に利用するということも目的と大きく隔たりがないため活用可能と考えますが、理事会として検討はされていますか？

昨年の総会で JA1RTS 日下社員からの質問に対して「衛星積立資金には会員内外からの寄付が含まれる」というこれまでと逆の訂正が日野岳専務理事からありました。本来の趣旨に近い形でたとえば大学衛星の開発への支援へ範囲を拡大して、青少年へのアマチュア無線活動の支援の観点から資産を有効利用することも可能ではないかと考えます。そのような考えはないのでしょうか？ 2023 年度内での検討をお願いします。

2023 年 4 月に内閣府より「宇宙基本計画(案)」に関する意見募集がありました。これに地球低軌道衛星や準天頂軌道衛星や地球軌道外の衛星についての意見も提出ができました。JARL としてこのパブコメにはどのような対応をしたのでしょうか？

以上